

令和5年度 第1回京都府立図書館協議会 議事要旨

1 開催日時

令和5年6月28日（水）10時15分から12時15分まで

2 場所

京都府立図書館（京都市左京区岡崎成勝寺町）

3 出席者

原田隆史委員（会長）、荒田和子委員、梅本恵子委員、小長谷麻美委員（zoom参加）、桂まに子委員、木下正広委員、松下亜樹子委員、

4 会議の内容

- (1) 令和4年度取組に係る内部評価について
- (2) 令和5年度事業計画について
- (3) その他

5 協議事項

- (1) 令和4年度取組に係る内部評価について
 - 事務局から概要について資料に基づき説明
 - 委員意見
 - ・ 評価が形式的になり、数値に偏りがちである。数ではなく質の評価をしないと不十分。
 - ・ 17項目すべてに関して、細かな分析をする必要はない。
 - ・ 府立図書館は裾野と利用者を広げ、閉じた図書館にしないことが、大きな目標となっている。
 - ・ 数値で評価を測るのは疑問である。
 - ・ 新規分野、見通しの立たないものは、細かな点にかかる評価前のデータが見たい。
 - ・ 評価コメントが追加され分かりやすくなった。
 - ・ 評価2は、できるだけ詳細に評価コメントを記載するべき。
 - ・ 「利用案内、調べ案内のオープンデータでの提供の推進」は、改定できていないのに、なぜ評価3なのか。
 - ▶ オープンデータのマニュアルを作ったが、なかなか進んでいない。反省点であり、今年度の課題である。
 - ・ 京都府オープンデータカタログサイトは、府立図書館のホームページからリンクがあるとよい。
 - ▶ 京都府オープンデータカタログサイトには当館ホームページからはリンクしていない。オープンデータは、今後の重点化を検討。
 - ・ 他機関との連携は、力を入れている、議会図書館との連携も大事である。
 - ▶ 議会図書館は、昨年度から K-Libnet の参加館である。議会図書館にも当館の連絡協力車が巡回するため、貸出の増加に繋がってる。

(2) 令和5年度事業計画について

○ 事務局から概要について資料に基づき説明

○ 委員意見

- ・ 小中高生に対する ID の配布や読書支援の事業を計画されており、大変良い。就学前児童、乳幼児への支援にも挑戦していただきたい。
- ・ 基本方針の中に市町村立図書館に対するサービスがある。情報共有、収集だけでなく、直接来館できない北部地域の子ども達に対してサポートできることを記入すること。
- ・ 一納税者として図書館を使わないのは損。ぜひ多くの府民にそのように感じていただけるよう情報発信して欲しい。
- ・ コロナが第5類となり、関係機関の方々との対面での連携交流事業ができる。ぜひともこの部分も成果を上げていただきたい。
- ・ 電子書籍も含めて、これからの世代、子ども、若者が読書することと、図書館の支援に期待する。
- ・ 学生は、オープンデータに興味をもっている。新しいものが始まっていることを知るだけでも勉強になる。4年度報告のビジネスコーナーはどうなっているか。
 - ▶ ビジネスコーナーは作成した。日本金融公庫と一緒に企業セミナーをし、企業する若い方にパンフレットを配布した。今後もニーズに応じて強化していきたい。学生インターンシップ事業について、従来のやり方ではなくて、学生が何をしたいのか尋ねたい。
- ・ 高校は、新学習指導要領施行で、非常に多様なテーマが乱立している。それに対してレファレンスできるのは図書館しかない。教職員は、学校図書館司書1人に頼りきりである。学校図書館司書担当研修、府立学校長会、府立高校の図書館協議会への説明の中で、学校の現状を念頭に置いて、支援いただきたい。
 - ▶ 学校支援セットの利用は、若干実績が落ちている。これを分析し、学校のニーズに応えなければならない。今後、学校や関係機関としっかり連携し、できるだけ求められている内容を整備していきたい。
- ・ 十分な収蔵空間確保による適正な保存について、各市町の図書館も同様に悩んでいる。どのような調査対策を検討しているか。
 - ▶ チームを組んで、ロードマップを作り、本格的に検討する予定。例えば、全国調査や現状調査。公立図書館は、永年保存で資料は増える一方である。資料の保存のありかたも含めての検討の方向である。市町村とも情報共有したい。
- ・ たくさんの事業計画をすべてフラットにやっていく必要はなく、メリハリをつけて、重点項目はきちんと細かなところまで努力してほしい。さらに、職員が疲弊しないよう注意してほしい。職員のレベルが下がっては意味がない。省略化することや、できないことがあってもかまわない。できるところ、きちんとやるべきところに力を注いでほしい。

(3) その他（各委員から図書館に対する意見・助言）

- ・ 高等学校では読書が非常に大事であり、本校でも読みかけの本を持つキャンペーンを重点目標として進めている。府立図書館を中心とした府内の事業拡大が大事である。
- ・ 今年の前期には、学生も地域に出るようになり、授業でもいろいろなプロジェクトを立ち上げている。この協議会の場でオープンデータの言葉を出せるようになった。これからの取組に期待したい。
- ・ 京都に文化庁が来たので、文化庁に図書館の予算を増やすよう要望できないかと思う。書庫の問題では、不要本はどの様に処理するのかなと思う。
- ・ 図書館教育を活用した授業づくりの研究大会を開催する。あらゆる教科の中に系統づけて、学びや学習支援としてどのように図書館を活用するのか、3年間の研究成果を公開する。府立図書館の取組を様々な形で発信したいと思う。
- ・ 最近は図書館を中心にした「街づくり」の成功例がある。一般の住民にとって行政は遠い存在だが、図書館は身近な入口にあり、そこからいろんな公共サービスに繋がっていく。利用者との接点を大切に活動に期待する。
- ・ 収蔵庫は、永遠の課題。府も検討されているので、何か良い案があれば情報提供をお願いしたい。
- ・ 各委員から出た意見は、今後の活動に生かし、図書館の活動が各地に伝わるのが協議会の大きな役割である。